

## 第7節 スポーツ・レクリエーションを振興する

### ■現状と課題（前期基本計画までの成果を踏まえて）

高齢化が進み、週休2日制が定着しているなかで、スポーツ活動は健康・体力づくりや市民の交流の場として重要な役割を果たしています。一方で、子どもや女性、障がい者のスポーツ活動など市民のスポーツニーズは多様化してきています。

本市のスポーツ・レクリエーション活動については、多種多様なプログラムの提供、スポーツ施設情報の提供などニーズにあわせたサービスを提供してきており、一定の成果をあげています。平成21年4月には地域の住民による寺田西総合型地域スポーツクラブ<sup>※</sup>が発足しました。今後についても、普及と定着を図るための指導者や団体の育成が求められています。

一方、城陽市総合運動公園や木津川河川敷運動広場、市民テニスコート、市民プールの施設があるものの、市民の多様なスポーツ活動へのニーズに応えていくためには、学校施設のさらなる活用を図るとともに京都府に対して木津川右岸運動公園（仮称）の早期整備を求める必要があります。

さらに、本市が発祥の地であるエコロベース<sup>※</sup>の全国普及やニュースポーツ<sup>※</sup>の普及にも取り組むとともに、スポーツ・レクリエーション施設の整備充実が課題となっています。また、市民体育館を始め、アイリスイン城陽、プラムイン城陽については、老朽化への対応が必要となっています。また、平成22年8月には本市が京都サンガF.C.のホームタウンとなりました。京都サンガF.C.を活かした、まちの活性化に、今後とも関係機関と連携し、市民の参画を得ながら支援に取り組む必要があります。

### ■基本方針

- だれもがスポーツに親しめる環境づくりを進めることにより、多くの市民がスポーツを大切にし、楽しむまちをめざします。
- 多くの市民が各種スポーツ活動を通じて、健康の保持・増進や体力の向上をめざすとともに、スポーツを通じてさわやかな交流を促進することにより、市民がいきいきとした生活を実現するまちをめざします。
- 「サンガのまち城陽」「スポーツのまち城陽」を全国に広めることにより、市民が誇れるまちをめざします。

### ■まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の目標	めざすべき目標
			(平成22年度)	(平成28年度)	
運動・スポーツを実践している市民の割合	まちづくり市民アンケート結果	%	37.0	50	↑
市民一人あたりのスポーツ施設利用回数	年間市公共スポーツ施設利用者総数／人口	回	3.6	4.2	↑

## ■主な施策の展開

### (1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

各世代・多世代にわたるより多くの市民が女性や障がい者など分け隔てなく健康でいきいきと生きがいをもって暮らせる社会づくりに向け、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しめるよう、市民ニーズに沿ったプログラムの提供に努めます。また、地域コミュニティの再生や地域住民の健康の保持増進を図るため、総合型地域スポーツクラブの育成を支援します。さらに、子どもの外遊びやスポーツ活動を通じた体力づくりの機会や場の提供を進めます。

### (2) スポーツ・レクリエーション施設の充実

市民ニーズを把握し、市民が快適で安全にスポーツ・レクリエーションに親しめるよう、城陽市総合運動公園をはじめとした施設の充実に努めるとともに新たなスポーツ施設の整備を図ります。また、アイリスイン城陽、プラムイン城陽についても、老朽化への対応に努めます。

### (3) 木津川右岸運動公園（仮称）の早期整備

京都府が整備する木津川右岸運動公園（仮称）については、計画当初から、山城地域待望の施設として大きな期待が寄せられており、広域的な都市公園として、総合球技場をはじめ子どもから高齢者まで幅広い多くの人々がスポーツ・レクリエーションを楽しめる公園として、引き続き早期の整備を求めています。

### (4) 各団体との連携（支援）と指導者の育成

市民一人ひとりが日常生活の中にスポーツ・レクリエーションを取り込み、定着できるよう、体育協会、体育振興会、スポーツ団体連合会、スポーツ少年団などとの連携を図るとともに支援します。

また、「親しめるスポーツ・レクリエーションの振興」の「機会」および「場」づくりに努めるとともに、初心者に対する活動の普及と定着を図るため指導者の育成に努めます。

### (5) 京都サンガF. C. の支援

国際競技力の向上にも寄与する京都サンガF. C. への支援を市民参加を得ながら推進することにより、それをシンボルとした市民が誇れるまちづくりを進めます。

## ■市民まちづくりワークショップからの提言（平成18年）

### 市民の役割（例示）

- 主体的にスポーツ・レクリエーションに親しむ。
- 地域で自主的・主体的に運営する総合型地域スポーツクラブを結成し、積極的に参加する。
- 市民自らが連帯感を醸成していくため、京都サンガF. C. をまちのシンボルとして応援していく。

### ■PR施策

#### ○京都サンガF. C. のホームタウン

京都サンガF. C. の公式練習場のあるまちとして、プロサッカークラブによるまちの活性化と、青少年に夢を与えることを目標に各種事業の展開を行っています。

保育園や小学校におけるサッカー教室への選手の派遣や、間近で迫力のあるプレーを体験できる応援バスツアーなど、市民の皆さんが広く参加できる事業展開を行っており、今後も京都サンガF. C. と協力しながらまちの活性化に努めていきます。



【選手の練習風景】

#### 【用語説明】

※総合型地域スポーツクラブ：種目の多様性、世代や年齢の多様性、技術の多様性を持ち、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個々人のニーズに応じた活動が質の高い指導者のもとに行えるスポーツクラブ。

※エコロベース：「人と環境にやさしく」を基本理念として開発されたニュースポーツで、競技方法は、野球を基本にして、すべてにやさしくした超軟式野球。楽しさと安全性を重視したルール の追及と限りある地球資源を有効利用しようと、豊富な竹材やリサイクル製品を活用し、エコロベースを通して環境保全への意識を高めることを目的としている。

※ニュースポーツ：技術やルールが比較的簡単で、だれでも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として、新しく考案されたり紹介されたスポーツ。古くから諸外国で伝統的に行われてきたスポーツも含まれており、また元々あったスポーツを変形・改良したものもある。